

ニイハオ:川口の中国人 / 11止 権文穎さん、黄錦英さん 姉妹の夢、いつかきっと / 埼玉

毎日新聞 2013年05月21日 地方版

◇悩みつつ、異郷で生きる

権文穎さん（27）と黄錦英さん（18）姉妹は3年前、母が働く日本にやってきた。姉の権さんは戸田市内の保育園で働き、妹の黄さんは川口市立県陽高校定時制3年生。夢を追い、探しながら、必死に生きている。

中国東北部のハルビン市出身の朝鮮族。母の弟妹も韓国に出稼ぎに出たため、いところと一緒に祖母に育てられた。母が日本へ行ったのは権さんが14歳、黄さんが5歳の時。2人に、親子そろった夏休みの思い出はない。「借金して日本に行ったから」。中国では、母のいない寂しさを心の奥にしまい込んで暮らしていた。



権さんは、就職や役所の手続きにコネやお金が絡む社会に不満を募らせ、大連の大学を2年で中退した。友人の誘いで、教会に通い「信仰の自由」を望んだことも理由の一つ。結局、母のいる日本を目指した。

保育士の補助員を始めた当初は仕事になじめず、何度も辞めたいと思った。踏みとどまったのは「世話をして間もない赤ちゃんが、私を見つけ笑顔ではいはいしながら来てくれた。心が癒やされ、大きな責任を感じた」からだ。

「子どもたちからは学ぶことが多い。私も一緒に成長している」と、日々の仕事のなかで保育の重要性を肌で感じている。夢は保育士。2年計画で資格の取得を目指している。



黄さんは来日直後から、元教師らがボランティアで教える「川口自主夜間中学」に通った。日本語も上達し、定時制高校に見事合格。希望に胸がふくらんだ1年生の成績はクラスで5番目だったが、2年生では18番に急降下した。バイトが忙しく、授業も休みがちになった。

姉が友達と同居を始めた後、母と2人暮らしになった。その母が1年前に韓国へ行き、今は1人暮らし。学校に通いながら懸命にバイトしなければ家賃も払えない。

かつての夢はパティシエ（菓子職人）だったが、「今は何をしたいかわからない」と悩む。でも「生きるためには頑張るしかない」。いつかきっと、夢を見つけるために。【鵜沢哲雄】＝おわり



6・7月の教室予定

月	川口パートナーステーション (火曜日)					栄町公民館 (金曜日)				
6月	4日	11日	18日	25日	—	7日	14日	21日	28日	—
7月	2日	9日	16日	23日	30日	5日	12日	19日	26日	-

 休み

スタッフ会議 (6月25・28日)

当日は**8時**までの学習になります。

スタッフは必ず出席しましょう。やむを得ず出席できないときは、

代表か副代表に話してください。

生徒も参加するよう働きかけてください。

スタッフ会議議題

生徒・スタッフ関係
夏の交流会
助成金について
その他



事務局コーナー

事務局会議 6月12日 (水) (第2水曜日) 川口市民パートナーステーション (19時15分より)

署名活動 6月16日 (日) 川口駅東口 (1時30分より)

事務局会議はだれでも参加できます。

阿部次子さんからの
お礼の手紙です。

注意

スタッフが、生徒の携帯電話や住所を聞くということはありません (生徒がスタッフに聞くときは別です)

教室からスタッフのところへ電話をすることはありません。(緊急以外)

担当のスタッフが休むということを伝えることはありません。(教室の休みの時はお知らせします)

教室内をうろうろするスタッフはいません。学習の邪魔になります。

生徒で学習の悩みや心の悩みがあるときは、金子までお知らせください。

この無任感致して存ります、この度胎動の雨利でも
ましてお目出度うござります、良かったです
野川様はじめ先生方のご苦勞を有難く受
止めます、今後は賢職結石のため入院
のくり返しをなして存ります、何も手傳いが
出来なくて、それをくやめます、小倉先生は、お入
世話に、なりました、よろしくつたえて下さりませ
原稿取り上げ下さいました、うれしく思いました
有難うござりました、先生方もお体を大切に、
これから、尚、お下さる、皆様に、よろしく
お傳へ下さりませ、ほんとは有難うござりました。